

※配置は変更となる場合がございます。  
ご了承ください。



## もくじ

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 春の法要全体日程                  | 1  |
| 春の法要にあたって 宗務総長 木越 渉       | 2  |
| 4月1日(火) 法要日程              | 4  |
| 親鸞聖人御誕生会(音楽法要) 表白         | 6  |
| 全戦没者追弔法会開催にあたって 宗務総長 木越 渉 | 8  |
| 4月2日(水) 法要日程              | 10 |
| 追弔の偈                      | 12 |
| 全戦没者追弔法会 表白               | 14 |
| 4月3日(木) 法要日程              | 17 |
| 4月4日(金) 法要日程              | 18 |
| 4月5日(土) 法要日程              | 19 |
| 帰敬式について                   | 20 |
| 各種催事のご案内                  | 21 |
| 渉成園(枳殻邸)での催し              | 26 |
| しんらん交流館での催し               | 28 |
| 大谷祖廟 花まつり                 | 29 |
| 真宗本廟奉仕                    | 30 |
| 「令和6年能登半島地震」被災地支援の取り組み    | 32 |

## 法要・講演会のライブ配信について

「師徳奉讃法要」「親鸞聖人御誕生会(音楽法要)」「全戦没者追弔法会」「相続講員物故者追弔会兼帰敬式受式物故者追弔会」「闍如上人三十三回忌法要(速夜・日中)」をインターネットにてライブ配信します。ぜひご覧ください。

※配信時間は各日程・諸行事のページ(4～19頁)をご確認ください。▶ の箇所を配信します。

### ライブ配信 視聴方法

視聴されたい法要・講演会の時間になりましたら  
「東本願寺公式YouTubeチャンネル」にアクセスしてください。

※配信状況・受信状況により、  
配信が途切れる場合があります。  
その際はしばらく経過後に再度、  
読み込みを行ってください。

YouTube 真宗大谷派 公式

検索



# 2025年 春の法要

## 日程

開門 11時5分  
閉門 17時30分

晨朝は阿弥陀堂、御影堂の順に勤まります。  
師徳奉讃法要は阿弥陀堂、その他の法要は御影堂で勤まります。

### 4月1日(火)

|        |                    |      |
|--------|--------------------|------|
| 7時     | 晨朝(同朋唱和)           | 約40分 |
|        | 御文・法話              |      |
| 9時30分  | 法話 不破英明氏           |      |
| 10時    | 師徳奉讃法要(楽)          | 約1時間 |
| (引続)   | 帰敬式                |      |
| 13時20分 | 親鸞聖人御誕生会 記念講演 青木玲氏 | 約30分 |
| 14時    | 親鸞聖人御誕生会(音楽法要)     | 約50分 |

### 4月2日(水)

|        |                                          |      |
|--------|------------------------------------------|------|
| 7時     | 晨朝(同朋唱和)                                 | 約40分 |
|        | 御文・法話                                    |      |
| 9時30分  | 全戦没者追弔法会<br>テーマ「念仏者の平和運動―戦争の抑止とは何か―」     |      |
| 10時    | 法要(楽)                                    | 約1時間 |
| 11時20分 | 記念講演 ダニー・ネフセタイ氏                          | 約1時間 |
| (引続)   | 帰敬式                                      |      |
| 14時    | 講演 原田小鈴氏                                 | 約1時間 |
| 15時    | 対談・ダニー・ネフセタイ氏×原田小鈴氏<br>「会場 しんらん交流館大谷ホール」 | 約30分 |

### 4月3日(木)

|        |                               |      |
|--------|-------------------------------|------|
| 7時     | 晨朝(同朋唱和)                      | 約40分 |
|        | 御文・法話                         |      |
| 10時20分 | 法話 大窪康充氏                      |      |
| 11時    | 相続講員物故者追弔会<br>兼帰敬式受式物故者追弔会(楽) | 約1時間 |
| (引続)   | 帰敬式「於：阿弥陀堂」                   |      |
| 13時20分 | 法話 大窪康充氏                      |      |
| 14時    | 闍如上人三十三回忌法要                   | 約1時間 |

### 4月4日(金)

|        |             |       |
|--------|-------------|-------|
| 7時     | 闍如上人三十三回忌法要 | 約1時間  |
|        | 御文・法話       |       |
| 9時30分  | 法話 埴山法雄氏    |       |
| 10時    | 闍如上人三十三回忌法要 | 約1時間半 |
| (引続)   | 帰敬式         |       |
| 13時20分 | 法話 埴山法雄氏    |       |
| 14時    | 闍如上人三十三回忌法要 | 約1時間  |

### 4月5日(土)

|       |             |       |
|-------|-------------|-------|
| 7時    | 闍如上人三十三回忌法要 | 約1時間  |
|       | 御文・法話       |       |
| 9時30分 | 法話 埴山法雄氏    |       |
| 10時   | 闍如上人三十三回忌法要 | 約1時間半 |



# 同朋社会の顕現

本年も真宗本廟「春の法要」にあわせていただきます。

さて、私たちの本山「真宗本廟（東本願寺）」の阿弥陀堂・御影堂は、江戸時代の四度に及ぶ焼失を経て、一八九五（明治二十八）年に再建され、

本年度で二三〇年となりました。数多の先人が命がけで相続してくださり、今を生きる私たちが享受している帰依処です。

この一三〇年に及ぶ歲月においては、戦争、自然災害や感染症の流行、経済恐慌など、歴史的な変遷の中で数多の「いたみ」がありました。私たちの宗門においても、一九六九（昭和四十四）年から約三十年に及んだ「教団問題」という危機に瀕し、本山の両堂や別院が宗派から離脱しかねない事象が起きました。宗門に縁ある者同士が、意見や立場の違いによる衝突、分裂、分断という悲痛な「いたみ」を経験してまでも、全ての宗門人の帰依処として崇敬護持されてきたのです。

そのような危機的経緯を経て公布された「真宗大谷派宗憲」において、宗門運営の第一として、次の言葉が掲げられています。

すべて宗門に属する者は、常に自信教人信の誠を尽くし、同朋社会の顕現に努める。

この「自信教人信」という言葉は、私たちが日頃親しんでいる「正信偈」で「善導独明仏正意」と表される

善導大師の言葉です。この言葉を、宗祖が『教行信証』にいただける際、その読みを「みずから信じ、ひとを教えて信ぜしむる」と記しておられます。

このことを私なりに申せば、「愚禿釋親鸞」の責任としての表現であろうと思います。稀有最勝の教えに遇えた「ひとり」としての責任。南無阿弥陀仏の声を聞いた、声が聞こえた者としての責任が、自信教人信を「みずから信じ、ひとを教えて信ぜしむる」と読ませたと受け止めています。

この一点を今、相共に確かめたく思います。一体なぜ、自分に南無阿弥陀仏が届けられているのか。その「いわれ」に耳を澄ませることを、あらゆる活動の根底に堅持いたしましょう。そして一つの行事や文章の奥に、どのような「いたみ」や「声なき声」といった背景があるのかを、静かに耳を傾けてまいりましょう。

現代社会は各方面で非常に危うい状況にあります。その中で自分は、我らは、どう歩むのが常の問題であります。

設け世界に満てらん火をも、必ず過ぎて要めて法を聞かば、会ず当に仏道を成ずべし。

広く生死の流を度せん。

（『真宗聖典 第二版』五四頁）

と『仏説無量寿経』に著される「いたみ」と、「無窮の志願」を、同じ時代を生きる私たちとして、今法要をはじめ、二つひとつの出来事を大切に紡いでいきたいと願っています。

一人でも多くのご参拝を、心よりお待ちしております。

宗務総長 木越 渉





|        |                                                                                                                 |      |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|
| 7時     | 晨朝(同朋唱和)「於・阿弥陀堂・御影堂」<br>御文・法話                                                                                   | 約40分 |
| 9時30分  | 法話 不破英明氏(大垣教区)<br>師徳奉讃法要(楽)「於・阿弥陀堂」                                                                             | 約1時間 |
| 10時    | (引続)<br>帰敬式「於・御影堂」(詳しくは20頁をご覧ください)                                                                              |      |
| 13時20分 | 親鸞聖人御誕生会 記念講演<br>講師 青木 玲氏(九州大谷短期大学准教授)<br>講題 「教えを聞く」                                                            | 約30分 |
| 14時    | 親鸞聖人御誕生会<br>(音楽法要)<br>【指揮】鍋木 勇樹氏(同朋高等学校音楽科主任教諭)<br>【電子オルガン】魯 あす香氏<br>【ティンパニ】高藤 摩紀氏(名古屋音楽大学教授)<br>【合唱】真宗大谷派合唱連盟他 | 約50分 |



## 師徳奉讃法要

親鸞聖人が讃嘆しておられる聖徳太子・七高僧をはじめ、今日の私たちにまで本願念仏のみ教えを伝えてくださった、すべての師主知識の恩徳を奉讃する法要をお勤めいたします。

親鸞聖人は聖徳太子を讃嘆して「皇太子聖徳奉讃」と題した和讃などを二百首近く製作しておられますが、その中に次のような一首があります。「和国の教主聖徳皇 広大恩徳謝しがたし 一心に帰命したてまつり 奉讃不退ならしめよ」。

また七高僧とは、インドの龍樹・天親、中国の曇鸞・道綽・善導、日本の源信・源空(法然)の七人の高僧をいい、親鸞聖人は七高僧について「正信偈」(「正信念仏偈」)においてその遺徳を讃えられ、聖徳太子同様、和讃(「高僧和讃」)を製作し讃嘆されています。

## 教えを聞く

みなさんにとって「聞く」ということは、簡単なことでしょうか、それとも難しいことでしょうか。もしかしたら、関係が近くなればなるほど、難しくなるのかもしれませんが。私自身がそうです。家族から「この前も言ったよ」ということをよく言われます。

例えば、「明日は早く起きてね」と言われたとします。どうすることがこの言葉を聞いたことになるでしょうか。それは、「うん、分かった」と返事をするのではなく、実際に早く起きるということでしょうか。

では、親鸞聖人の教えを聞くとはどういうことでしょうか。「教えを大事にします」、「教えを信じます」と言っただけでは、本当の意味で聞くということにはならないでしょう。そうではなく、生活の中で手を合わせて「南無阿弥陀仏」と念仏するようになる、これが教えを聞くということではないでしょうか。

親鸞聖人の御誕生会を通して、教えを聞くとはどういうことなのかを考えていきたいと思います。

青木 玲  
(九州大谷短期大学准教授)



一切の三宝、参会の同朋の皆さまに申し上げます。本日ここに宗祖親鸞聖人の御誕生会をお勤めいたします。

まず令和六年一月の「能登半島地震」さらには、復興の途上に起きた九月の「能登半島豪雨」により、亡くなられた方に深く哀悼の意を表します。そして、大切な家族を亡くされ、住まいや故郷に被害を受けられた多くの方々に、心よりお見舞いを申し上げます。そして、世界に目を向ければ、終息が見えず、さらに広がりつつある戦火の下に、家族を失い、故郷を失ったたくさんの方々がいます。

それらの方々に思いを致して、この法要をお勤めいたします。

そもそも人間とは、釈尊が、「一切皆苦」と説かれたこの「娑婆界」すなわち「忍ぶべき所」に生まれ出たものです。しかし、そこに「天上天下唯我独尊」、すなわち、「このわたくしは、ただ一人であつて、尊いものとなるのだ」という、すべての衆生の誕生に通ずる

願いを示し、仏と成るという道を明らかにしてください。それが釈尊でした。

宗祖親鸞聖人は、そこに真向かい、わたくしたちはこの土において、仏に救われる者となるのが仏道の第一歩だと明らかにされました。どれほど教えを聞いても、自分の思いのなかで救いを考え、仏法から離れていく姿、それが仏の光に余すところなく照らされ、だされること、それを「南無阿弥陀仏」という言葉であらわしてください。

人と生まれたことの意味をたずねる大事な出発点であり、その道しるべとなるお念仏をお示しくくださった宗祖親鸞聖人の誕生を慶び、法要を厳修いたします。

伏して願い申し上げます。一切の三宝の御照護を請い、この音楽で荘厳された法要の願いと響きが、広く、そして深く十方をゆるがし、一切の衆生に届かんことを。

二〇二五年四月一日 釈修如、敬つて申し上げます。



## 「テーマ」念仏者の平和運動―戦争の抑止とは何か―

かつて私たちの宗門は戦争に積極的に協力しました。それは、戦争とは何たるかを  
知ろうとせず、また仏教徒が「殺してはならない、殺させてはならない」という仏の教え  
に背いた過ちでした。そのことを恥じ、一九八七年より全戦没者追弔法会が勤まつてき  
ました。

日本が関わった可否かを問わず、人類の起こしてきたあらゆる戦争、今まさに広がる  
戦火のもとで命をなくされている世界中の方々という意味が、「全」には込められていま  
す。また、私たちの宗門の過ちを忘れず、あらためて教えの前に立つ思いを「法」に込め  
て、今年もこの法会を厳修いたします。

一九八七年に初めてこの法会が勤まるにあたり、古賀制二宗務総長（当時）は戦争の防  
止に努力すると宣言し、「日々の暮らしがそのまま平和運動であるような念仏者の生

活実践に向かつて、今からその歩みを始めます」と述べました。さらに私たちの宗門は、  
不戦決議（一九九五年）、非戦決議（二〇二五年、二〇三三年）といった声明を公表し、過ちを繰り  
返さない旨を表明してきました。

二〇二五年は、日本にとって「戦後八十年」の節目の年です。昨年の法会では、非暴力・  
不服従抵抗こそが念仏者の平和運動であると学びました。しかし、世界各地の戦火は  
激しさを増し、武力を戦争の抑止力とする残酷さが現前しています。私たち一人ひと  
りは念仏者として自らの責務を果たしているのか、という課題が依然としてあります。  
今年の法会では、非戦・平和の歩みを少しでも前に進めるために、武力にたよること  
のない戦争の抑止とは何かを確かめます。

二〇二五年四月

## 非戦決議2015

7時

晨朝(同朋唱和)「於・阿弥陀堂・御影堂」  
御文・法話

約40分

9時30分

全戦没者追弔法会

テーマ「念仏者の平和運動―戦争の抑止とは何か―」

開会の挨拶 宗務総長 木越 渉

「追弔の偈」朗読(12〜13頁参照)

／原田 小鈴氏(長崎大学非常勤講師)

法要(楽)

約1時間

10時

記念講演

講師 ダニー・ネフセタイ氏

(木製家具作家・元イスラエル軍兵士)

講師メッセージは16頁

約1時間

講題 「武力で戦争は防げるの？」

「気づき戦争と人種」

閉会の挨拶

14時

講演 原田小鈴氏(長崎大学非常勤講師)

講師メッセージは16頁

講題 「被爆80年いま私たちが伝える

「世代を超えて語り継がれる原爆・平和」

15時

対談 ダニー・ネフセタイ氏×原田小鈴氏

「於・しんらん交流館大谷ホール」

約30分

約1時間

### 全戦没者追弔法会

戦争でいのちを奪われた方々を憶念し、仏が願われた「兵戈無用」(『仏説無量寿経』)の教えから私たちの今を問い直す法要です。  
日本が関わったか否かを問わず、人類の起こしてきたあらゆる戦争、今まさに広がる戦火のもとで命をなくされている世界中の方々という意味が、「全」には込められています。また私たちの宗門の過ちを忘れず、あらためて教えの前に立つ思いを「法」に込めて、今年もこの法会を厳修いたします。

### 「非戦・平和」展

期 間 3月27日(木)〜5月7日(水)  
時 間 9時〜16時 ※3月27日は午後から  
※5月7日は午前まで  
会 場 参拝接待所ギャラリー1階

私たちは過去において、大日本帝国の名の下に、世界の人々、とりわけアジア諸国の人たちに、言語に絶する惨禍をもたらし、佛法の名を借りて、将来ある青年たちを死地に赴かしめ、言いしれぬ苦難を強いたことを、深く懺悔するものであります。

この懺悔の思念を旨として、私たちは、人間のいのちを軽んじ、他を抹殺して愧じることのない、すべての戦闘行為を否定し、さらに賜った信心の智慧をもって、宗門が犯した罪責を検証し、これらの惨事を未然に防止する努力を惜しまないことを決意して、ここに「不戦の誓い」を表明するものであります。

さらに私たちは、かつて安穩なる世を願い、四海同朋への慈しみを説いたために、非国民とされ、宗門からさえ見捨てられた人々に対し、心からなる許しを乞うとともに、今日世界各地において不戦平和への願いに促されて、その実現に身を捧げておられるあらゆる心ある人々に、深甚の敬意を表するものであります。

私たちは、民族・言語・文化・宗教の相違を越えて、戦争を許さない、豊かで平和な国際社会の建設にむけて、すべての人々と歩みをとることを誓うものであります。

『不戦決議』(一九九五年)

戦後五十年を経た一九九五年六月、真宗大谷派は、人類の願いを「不戦の誓い」として表現しました。私たちは、この決議の重みを再確認し、あらためて平和の意味を問いたいと思います。

決議より二十年、戦争の悲惨さと愚かさに対する人々の感覚は風化してきています。その風化は、現在も、基地問題で苦しむ沖縄の人たちの心に向き合おうとせず、戦争に向かう状況を生み出そうとしています。私たち人間の生きざまを憐れんで「国に地獄・餓鬼・畜生あらば、正覚を取らじ」と誓い、法蔵菩薩は、浄土を建立されました。

永い人類の歴史は、人が人を殺し、傷つけ合う悲しみの連続でありました。如来の願心は、自我愛を正当化して「賜ったいのち」を奪い合うことを悲しみ、私たちに「共に生きよ」と呼びかけておられます。

この呼びかけに応じ、「殺してはならぬ、殺さしめてはならぬ」という仏陀の言葉を如来の悲願と受け取り、あらためてここに「非戦の誓い」を表明いたします。

そして、世界の人々と積極的な対話を通じて「真の平和」を希求してまいります。  
上記決議いたします。

二〇二五年六月九日 真宗大谷派 宗議会議員一同  
二〇二五年六月十日 真宗大谷派 参議会議員一同



# 追弔の偈 戦争にいのち奪われたあなた方よ

清らかなる光り  
舞い輝くとき 音もなく  
世界の海のここ かしこから  
起き 立ち上がる  
あなた方。  
黒闇の海底は揺れ  
海の慟哭がわき上がる。

清らかなる光り  
舞い輝くとき 音もなく  
世界の大地のここ かしこから  
起き 立ち上がる  
あなた方。  
蒼ざめた地の底は揺れ  
地の慟哭がわき上がる。

戦争にいのち  
奪われたあなた方よ。  
あなた方がいま  
その至純なる眼のうちに映し  
とられているものは 何か。  
息き絶えんとするとき  
なぜ と叫んだあなた

息き絶えんとするとき  
お母さん と叫んだあなた。  
息き絶えんとするとき  
無言のまま ただ  
蒼天を見上げるだけであつたあなた。  
あなたの虚ろなる眼が いまはの際に  
映しとつたものは 何か。

天空に慟哭が満ちわたる。  
姿なきあなた方よ。  
あなた方はいま  
大なる光輪のもとに集われた。  
石が哭く そこに。  
草が哭く そこに。  
波が哭く そこに。  
空が哭く そこに。

あなた方が まっすぐに  
見つめようとするのは 人間。  
その昔 すでにして  
「罪惡深重・煩惱熾盛」と  
呼ばれていた人間。  
人間が 自然の主人に  
なろうとしたことは おのれの無明に

火を放つことであつた。  
姿なきあなた方よ。  
あなた方が いま静かに  
見つめておられるのは  
そのどす黒い無明の炎であるのか。

炎と化した無明は  
西風にのつて 地球を一巡し  
全世界に黒炎の嵐を呼び起こした。  
火焰にのまれた大地。  
くり返し焼かれた大地。  
炎はさらなる黒炎を呼び  
うねり狂い 押し合い  
返し合い 燃え重なり  
生きとし生けるもののいのちを  
呑み

いつそう燃え盛り  
海を沸騰させた。  
ついには 天空を切り裂いた。  
戦争に正義という名の  
冠をかぶせたのは 誰か。  
原子爆弾を爆発させた人間。

もの言わぬあなた方よ。  
わたしたちはいま まっすぐに  
見つめられる あなた方に。  
無明に酔いしれているわたしたち  
罪に罪を 重ねんとしているわたしたち。  
あなた方の  
深い沈黙からの眼差しに  
わたしたちはいま まっすぐに  
見つめられる。

何をなすべきか わたしたちは。  
いのち奪われたあなた方が  
いのち奪われてなお  
生きとし生けるもののいのちを  
見守らんとしているとき。

蒼ざめた耳底に  
あなた方の澄みきつた声が聞こえる。  
あなた方の声。  
いのちの声。  
その声。  
なむあみだぶつ

あなた方は すでにして  
数知れない悲しみを  
堪えてきたというのに  
なお 人間の悲しみを  
悲しもうとされるのか。  
打ち震える悲しみ  
切り裂かれた天空に  
一滴の涙が光る。  
姿なき方々よ  
全世界の 数知れない仏さまよ。

いまこそ わたしたちは  
あなた方に倣いたい。  
大なる光輪のもとに集われたあなた方  
仏さまよ。  
生きとし生けるものの  
いのちを  
絶え間なく称えられるあなた方  
仏さまよ。

真実の智慧をもつて  
世界の平和を願われるあなた方  
仏さまよ。

わたしたちは いまこそ  
あなた方を称えよう。  
あなた方は あなた方の願いを  
わたしたちが わたしたちの  
願いとすることを許し下さるか。  
わたしたちはいま わたしたちの  
悲しみを自らの悲しみとして下さる  
あなた方とともに  
仏さまよ  
いのちの声をいただこう。

なむあみだぶつ  
永遠なるいのちよ 光栄あれ。  
仏さまとともにある平和よ  
永遠なれ。  
なむあみだぶつ  
なむあみだぶつ  
なむあみだぶつ

作詞 高史明

「追弔の偈」は、全戦没者追弔法会の願いを「戦争にいのち奪われたあなた方よ」と題し、高史明氏（作家）に散文詩の形で表現いただいたもので、1988年から毎年朗読されています。発表当時の『真宗』誌（1988年2月号）には、高史明氏から「死者は怨みを言わない。ただ無限の深みから、私たちをみつめる。見つめられている私たちが生者として何を願い何をなすべきかは、すでに明らかである。死者の無言の願いにに応じていく方向こそ、私たちの未来へ通じる道がある」との言葉が寄せられています。

全戦没者追弔法会 表 白

謹んで阿弥陀如来、宗祖親鸞聖人、三世十方の諸仏如来、ならびに一切衆生に申し上げます。

本日ここに、親しく宗祖親鸞聖人のまえに坐すことを得て、法との出遇いを慶喜び、如来の本願に知らしめられた宗門の罪に向き合い、全戦没者追弔法会を厳修いたします。

かつて私たちの宗門は、戦争とは何なのかを知ることもなく、仏の教えに背き、みずから戦争に荷担して、多くの人のいのちを奪いました。この真宗大谷派の罪をいまあらためて、御仏とすべての戦争によって奪われたいのちに懺悔いたします。

仏に煩惱をそなえた凡夫と言い当てられ、同じ罪を繰り返しかねない私たちであるゆえに、戦争によって失われるいのちのない社会を実現するための道を明らかにし、念仏者として「同朋社会」の顕現に努めてまいります。

われら真宗門徒は、ひとえに、この身とその無明の闇を照らす仏の教えにしたがい、生活の刻一刻を非戦平和の実践に尽くすことを誓います。

二〇二五年四月二日 釈修如 敬つて申し上げます。



# 4月3日(木) 御影堂



|        |                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------|
| 7時     | 晨朝(同朋唱和)「於：阿弥陀堂・御影堂」<br>御文・法話<br>約40分                                   |
| 10時20分 | 法話 大窪 康充氏(金沢教区)<br>※手話通訳があります。<br>相続講員物故者追弔会兼<br>帰敬式受式物故者追弔会(楽)<br>約1時間 |
| 11時    | (引続)<br>帰敬式「於：阿弥陀堂」(詳しくは20頁をご覧ください)                                     |
| 13時20分 | 法話 大窪 康充氏(金沢教区)<br>聞如上人三十三回忌法要<br>約1時間                                  |
| 14時    | 速夜(楽)                                                                   |

## 相続講

「相続講」は、宗祖親鸞聖人の教えを聴聞し、お念仏の信心を正しく伝えていくための教えの相続(法義相続)と、聞法の根本道場である真宗本廟の維持(本廟護持)をせずにはおれないとの深い願いによって、1885(明治18)年に創設されました。「相続講」という名称は、真宗再興の祖である蓮如上人の教化の歩みの中で生まれた聞法の集いである「お講」に由来し、仏法を聴聞して信心を獲ることを主とした集まり(僧伽)を表しています。

1880(明治13)年には、蛤御門の変(禁門の変)で焼失した御影堂・阿弥陀堂等を再建する大事業が始まりましたが、そこには数知れないほど多くの真宗門徒の本廟護持を願うご懇念が、この相続講制度により一つに結集し、15年をかけて完遂されました。

以来、脈々とその精神は受け継がれ、相続講によるお一人おひとりからのご懇念は、宗門存続の意義である同朋社会実現のための基盤となり、聞法と伝道、そして財務に大きな役割を果たしています。

## ダニー・ネフセタイ氏 メッセージ



私は一九五七年にイスラエルで生まれ、イスラエルの教育を受け、高校卒業後は当然のように徴兵制により軍隊に入隊しました。誰もが自由な教育を受けたと思っていたが、軍隊は必要不可欠だという国防意識はイスラエルでは普遍的で、空軍パイロットになることが私の夢であつたことも不思議ではありませんでした。

一九八〇年代初頭に来日して、憲法九条を知り、日本とイスラエルの国防の意識の差に驚きました。その間、数々のガザ攻撃がありました。が、徐々に頭と心がモヤモヤし始め、二〇〇八年のガザ爆撃でパレスチナの子ども三四人が殺されたことで遂に自分が所属していたイスラエル空軍の残虐性を許せなくなりました。国防のために隣人の子どもまでも大量虐殺する事の罪はどんな理由であれ、許容できません。

それ以来、私は発信を続けています。

今、日本では防衛費増大が私たちの生活を圧迫していますが、自衛のためというまやかしの言葉で軍需産業は儲かるばかりです。武力で戦争は本当に防げるのでしょうか。

ダニー・ネフセタイ氏と原田小鈴氏の対談が行われます。ぜひご参加ください。

日時 4月2日(水) 15時〜15時30分

会場 しんらん交流館大谷ホール

## 原田小鈴氏 メッセージ



私は広島・長崎で二重被爆した祖父、山口彊(一九一六〜二〇一〇)の被爆体験や非核平和の願いを紙芝居や当時の映像を用いて、次世代に語り継ぐ活動をしています。二〇二五年で被爆八十年を迎えます。世界各地では紛争が絶えず、核がいつ使われるか分からないという危機に直面しています。今を生きている私たちは、改めて八十年前に何が起こったのかを知り、被爆体験の苦しみや非核平和の願いを受け止めることが大切だと思います。平和への歩みを共に考え、つないでいきましょう。

# 4月5日(土) 御影堂



|             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| 10時         | 9時30分       | 7時          |
| 法話          | 法話          | 御文・法話       |
| 壇山法雄氏(富山教区) | 壇山法雄氏(富山教区) | 壇山法雄氏(富山教区) |
| 日中(楽)       | 日中(楽)       | 日中(楽)       |
| 約1時間半       | 約1時間半       | 約1時間        |

# 4月4日(金) 御影堂



|             |             |                     |             |             |             |
|-------------|-------------|---------------------|-------------|-------------|-------------|
| 14時         | 13時20分      | (引続)                | 10時         | 9時30分       | 7時          |
| 法話          | 法話          | 帰敬式(詳しくは20頁をご覧ください) | 法話          | 法話          | 御文・法話       |
| 壇山法雄氏(富山教区) | 壇山法雄氏(富山教区) | 壇山法雄氏(富山教区)         | 壇山法雄氏(富山教区) | 壇山法雄氏(富山教区) | 壇山法雄氏(富山教区) |
| 日中(楽)       | 日中(楽)       | 日中(楽)               | 日中(楽)       | 日中(楽)       | 日中(楽)       |
| 約1時間        | 約1時間        | 約1時間                | 約1時間        | 約1時間        | 約1時間        |

## 聞如上人

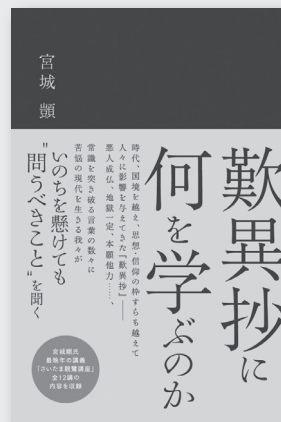
〈1903年～1993年〉

東本願寺第24代。1949年に蓮如上人四百五十回忌法要、1961年に宗祖親鸞聖人七百回御遠忌を勤められた。1993年、89歳で示寂。本年は三十三回忌にあたる。



私たちがいのちを懸けても“問うべきこと”は、一体何か…

## 歎異抄に 何を学ぶのか 宮城 顕 著



浄土真宗の宗祖 親鸞の亡きあと、門弟の耳の底に残り続けた金言の集成『歎異抄』。時代、国境を越え、思想・信仰の枠をも越えて、無数の人々に影響を与えてきたこの書に、苦悩の現代を生きる我々はいったい何を学ぶのか。著者最晩年の講義をここに書籍化。

四六判 328頁 定価:2,200円(税込)



# 〈各種催事のご案内〉

春の法要期間中、真宗本廟境内では、さまざまな催しを行います。  
皆さまのご参加をお待ちしております。

## 真宗本廟(東本願寺)花まつり

期 間 4月1日(火)～8日(火) 時 間 9時～16時30分 ※8日は15時まで

場 所 御影堂門下

お釈迦さまの生誕をお祝いし、御影堂門下に花御堂を設置いたします。  
花御堂に安置されている誕生仏に甘茶をかけてご参拝ください。



## 重要文化財 御影堂門楼上一般公開

御影堂門楼上の一般公開を行います。

期 間 4月1日(火)～6日(日)

受 付 御影堂門下

寄 付 金 1,000円  
(高校生以下500円)

見学時間 10時～16時30分  
(最終受付16時)

※日程の都合により時間変更となる場合があります。  
※通常は非公開です。



楼上の釈迦三尊像  
(中央:釈迦如来、右:弥勒菩薩、左:阿難尊者)

## 帰敬式

帰敬式は「おかみそり」ともいわれ、仏弟子となる大切な儀式です。  
この帰敬式では、剃刀の儀を受け、仏・法・僧の三宝に帰依することを誓います。そして、お一人お一人に、法名が授けられます。  
仏・法・僧の三宝とは、「仏」はお釈迦さまをはじめとする真実に目覚めた人といい、「法」はその仏が説かれた阿彌陀如来の本願を表します。そして「僧」は僧伽ともいい、その法に依って生きる人々の集まりのことです。その仏・法・僧は宝である、と表現し

ています。  
また、お釈迦さまの「釈」の字が冠せられた法名(釈〇〇・釈尼〇〇)は、亡くなった後の名前と思われるがちですが、お釈迦さまの弟子(仏弟子)としての名告りであり、生前にいただくのが本来のあり方です。  
親鸞聖人は、愚禿親鸞と名告り、生涯を通して、三宝に帰依する具体的なあり方として、お念仏の生活を歩まれました。帰敬式は、そのお念仏の生活をはじめめる真宗門徒としての出発式です。



2017年 札幌別院報恩講

## 「2025年 春の法要」中の帰敬式日程

4月1日(火)「師徳奉讃法要」後

2日(水)「全戦没者追弔法会記念講演」後

3日(木)「相続講員物故者追弔会兼帰敬式受式物故者追弔会」後

4日(金)「闍如上人三十三回忌法要日中」後

※場所は御影堂(3日のみ阿彌陀堂)

礼 金 1万円(20歳以下は5千円)

受 付 参拝接待所

[1日・2日・4日]は9時から9時30分まで

[3日]は9時から10時10分まで

(お問い合わせ)本廟部参拝接待所

TEL:075-371-9210 FAX:075-371-9204

(9時から17時まで)



## 刑務所作業製品展示即売会・パネル展

企画 真宗大谷派教誨師・篤志面接委員会



.....



おてら  
おやつ  
クラブ

郵送でも受け付けています。住所は下部に記載しています。



江戸時代から続く御仏事 おんぶつじ

れん によ しょう にん ご えい どう ちゅう お こし ぐるま  
「蓮如上人御影道中」御輿車展示中!

しんしゅうほんびょう                      よし ざきべついん  
真宗本廟（東本願寺）と吉崎別院の間を蓮如上人の御  
影のお供として歩く「蓮如上人御影道中」で実際に使  
われている御輿車おごしぐるまを展示しています。



吉崎別院(福井県)で勤まる、本願寺第8代・蓮如上人による北陸教化の御苦労とその徳を偲ぶ「蓮如上人御忌法要」(毎年4月23日～5月2日)にあわせて、京都と吉崎の間を蓮如上人の御影を御輿に乗せ、上人のお供として歩く御仏事。江戸時代から今日に至るまで絶えることなく受け継がれています。



吉崎別院(福井県あわら市)→東本願寺  
5月2日～9日 約220km

(受付時間 8:30~16:30)

御影道中について  
詳しくは 



4月17日～23日(御下向)、5月2日～9日(御上洛)にかけて「蓮如上人御影道中」情報ポータルサイトに御影道中一行のGPSによるリアルタイム位置情報を公開します。ぜひご覧ください。



「蓮如上人御影道中」ポータルサイト



## 〈各種催事のご案内〉

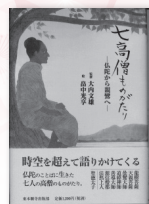
# 東本願寺出版 特別企画

## 1 春のブックフェア開催!

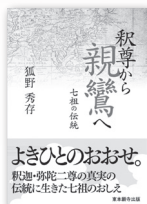
期 間 4月1日～4月30日 東本願寺出版  
ホームページ



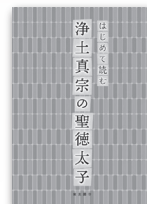
4月1日に勤まる「師徳奉讃法要」は、聖徳太子や七高僧をはじめ、今日にいたるまで本願念仏のみ教えを伝えられたすべての師への恩徳を讃える法要です。  
そこで、関連する東本願寺出版発行物を東本願寺出版ホームページにてポイント2倍で販売いたします。  
ぜひこの機会に東本願寺出版ホームページをご利用ください!



七高僧  
ものがたり  
一仏陀から親鸞へ  
1,320円



釈尊から  
親鸞へ  
一七祖の伝統  
825円



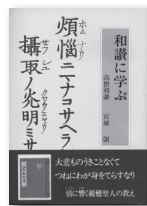
はじめて読む  
浄土真宗の  
聖徳太子  
385円

DVD

七高僧  
ものがたり  
DVD  
2,750円



和讃に学ぶ  
—高僧和讃—  
440円



親鸞聖人と  
聖徳太子  
275円



※価格はすべて1冊あたり税込です。

## 2 お買い物広場で 絵本を読もう

日 時 4月1日(火)～5日(土)午前法要終了後

所要時間 30分程度

春の法要期間、東本願寺出版が絵本の読み聞かせを行います。  
おとなも子どもも、よんでもらうことで新しい発見があるかも?!  
ぜひおこしください。



## 〈各種催事のご案内〉

# 東本願寺 お買い物広場

東本願寺でしか購入できないオリジナルグッズや書籍を販売しております。

時 間 9時から16時まで



## ◇ お買い物広場限定商品 ◇

東本願寺お買い物広場でしか買えない新作のオリジナル商品をご紹介します。ぜひお立ち寄りください。

※「願生舎オンラインショッピング」では販売していない商品です。



数量限定

お鏡おかき(醤油・山椒・梅しそ)

各430円(税込)

1月1日の修正会で飾られた鏡餅がおかきになりました!数量限定での販売となります。



新商品

黒豆菓子(3種)

1個394円～  
594円(税込)

新商品

黒豆茶

216円(税込)

京都市立芸術大学と黒豆で有名な北尾商事とのコラボ商品。東本願寺参拝記念としても、手土産としても。



鶴亀モチーフのデザイン

御影堂門、能舞台、涉成園回廊のイラスト

御影堂門の獅子をあしらっています

新商品

アロハシャツ  
(黒・白)

サイズ:M・LL  
各1枚3,850円(税込)

新商品

法被(紺・白)

サイズ:M・LL  
各1枚3,300円(税込)



「願生舎オンラインショッピング」でも  
様々な商品を販売しています。ぜひご利用ください。





## 渉成園(枳殻)

### ◆春の渉成園と粥膳

真宗門徒が大切にしてきた「お齋」を通して仏縁を結んでいただくことを願い、「春の渉成園と粥膳」を開催します。

この粥膳は、真宗本廟におそなえしたお仏供(お仏飯)のおさがりを用いて調理したもので、春をイメージした菜の花粥、炊き合わせ、香の物等を朱塗りの器に盛った本格的なお膳です。

#### 時間・期間

◆4月1日(火)～3日(木) 開始時間に皆様揃ってお召し上がりいただきます。

1回目11時40分～/2回目12時40分～

※各回80名定員(定員になり次第、申込を締め切ります。なお、空席がある場合に限り当日券もご用意しています)

◆4月4日(金)・5日(土)

受付いただいた方から順次お召し上がりいただきます。

受付時間11時～14時 ※売り切れ次第終了

4日・5日は渉成園の参観者が利用しやすいように新たな企画として設定いたしましたので、ぜひこの機会に粥膳をお楽しみください。

会場 渉成園 閑風亭[受付:渉成園入口すぐ]

冥加金 2,500円(当日、会場受付でお納めください)

申込方法 電話予約制[075-371-9210] ※前日16時まで  
当日券をお求めの場合は、渉成園の受付までお越しください。



## 渉成園(枳殻邸)

真宗本廟(東本願寺)の飛地境内地である渉成園は、江戸時代初期に造営された池泉回遊式の庭園で、かつては周囲に枳殻の木が植えてあったことから、枳殻邸の名でも親しまれています。江戸時代の文人・頼山陽が「渉成園十三景」として讃えた庭園の景観は、今も造営当初の趣を残し、1936(昭和11)年12月には、国の名勝に指定されています。

四季折々に美しさを見せる渉成園ですが、特に春の法要の季節には桜が咲き、より一層その趣を高めています。



春の渉成園

## 邸)での催し

### ◆僧侶がご案内 名勝 渉成園“おもてなしの舟旅” 特別ツアー〈事前予約制〉

春の渉成園で非日常のひと時をお過ごしいただける、「舟旅」を中心としたツアーを期間限定で開催します。

内容 和舟を使用した「舟旅」・非公開茶室「漱枕居」の見学・非公開書院「臨池亭」にて抹茶接待もしくは「蘆菴」にて粥膳の提供

期日 3月31日(月)～4月5日(土) 1日6回(10時・11時・12時・13時・14時・15時)

定員 各回5名(乗船最大定員)

参加費 ①通常1名6,000円(抹茶接待付き)

②粥膳(蘆菴1階/定員4名)1名 8,500円

粥膳(蘆菴2階/定員2名)1名10,000円 ※参加費はすべて庭園維持寄付金込。

申込方法 WEB予約制(宗派ホームページをご覧ください)



お申込みは



#### 開園時間

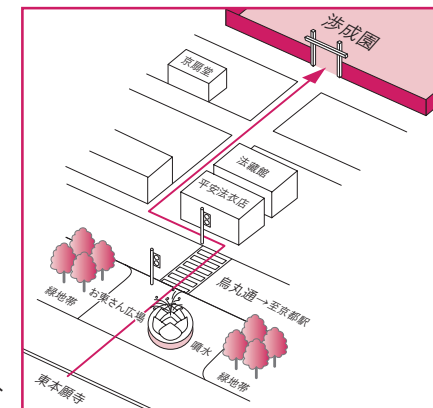
9時～17時  
(最終受付16時30分)

#### 庭園維持寄付金

〈昼間〉700円以上  
高校生・中学生:300円以上  
小学生以下:無料

#### アクセス

京都駅より徒歩10分  
市営地下鉄烏丸線・五条駅より7分



渉成園について  
詳しくは



渉成園  
インスタグラム



【お問い合わせ】本廟部・参拝接待所 TEL:075-371-9210



# 大谷祖廟花まつり

大谷祖廟は、私たち真宗門徒が宗祖と仰ぐ親鸞聖人の御廟(お墓所)です。  
毎年、4月1日から8日まで、大谷祖廟では、お釈迦さま(8日)と宗祖親鸞聖人(1日)の御誕生を祝う仏事として「花まつり」を開催しています。ぜひ、ご参拝ください。

※本堂前の花御堂は、親鸞聖人御廟所におそなえいただいた仏花で再荘厳しています。誕生仏に甘茶をかけてご参拝ください。

期 間 4月1日(火)～8日(火)  
開催時間 9時から15時30分まで  
会 場 大谷祖廟 本堂前



## ◆ 花まつり・子どものつどい in 大谷祖廟

日 時 4月6日(日) 11時30分～12時20分  
会 場 大谷祖廟 茶所仏間  
受 付 ご参加いただける方は11時20分までに大谷祖廟事務所前  
テントにお越しください(事前申込不要)。  
対 象 小学生以下  
内 容 お勤め(正信偈同朋奉讃)／おはなし／本堂お参り／  
甘茶かけ／記念写真撮影

## 〈大谷祖廟へのアクセス〉

ご参拝は、公共交通機関をご利用ください。

《市バス》バス停「京都駅」または「鳥丸七条」  
より206系統(高野・北大路バスターミナル  
行)→バス停「祇園」下車、徒歩10分

《タクシー》  
「円山公園南側の東大谷」と  
お伝えください。

参拝時間 開門: 5時 納骨・読経 8時45分～11時30分  
閉門: 17時 [年中無休] 受付時間 12時45分～15時30分

「納骨・永代経」のご予約はこちらから



大谷祖廟

検索



お問い合わせ

大谷祖廟事務所(TEL:075-561-0777) 〒605-0071 京都市東山区円山町477

# しんらん交流館での催し

入場  
無料

## ギャラリー展示「お釈迦さまとその風景」展

大谷婦人会の月刊雑誌『花すみれ』に、仏教を明らかにされたお釈迦さまの生涯をたどる「お釈迦さまとその風景」(全12回)を宮下晴輝元教学研究所長に執筆いただきました。

連載されたページとともに、インドのさまざまな写真を展示しております。お釈迦さまが見た風景をより身近に感じてみてはいかがでしょうか。ぜひお越しください。

※クイズ回答者には記念のクリアファイルを差し上げます。



時 間 9時から17時まで 会 場 しんらん交流館1階交流ギャラリー

## 真宗教化センター しんらん交流館



真宗教化センター しんらん交流館では、一年を通じて定例法話や日曜講演などのお念仏の教えにふれる法座を開いています。また、仏教書籍をはじめ、マンガ、絵本や小説などの一般書を取り揃えた図書コーナー(東本願寺文庫)やギャラリーがあります。図書は貸し出しもできます。

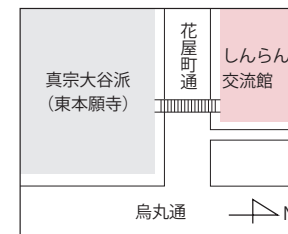
ぜひ、ご参拝の際、またいつでもどなたでもお立ち寄りください。

### 開館時間

9時から17時まで 休館日: 毎週火曜日

※4月1日(火)は春の法要期間につき、開館しています

※その他行事等により休館する日があります



〒600-8164 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地  
TEL: 075-371-9208(代表)  
E-mail: shinrankoryukan@higashihonganji.or.jp

交流館の  
最新情報は  
こちら



## 真宗大谷派(東本願寺)公式 ホームページ等についてのご案内

東本願寺では、公式ホームページを公開し、宗派におけるさまざまな情報を発信しています。

### 主な公開内容

- ◆ 宗派からのさまざまなお知らせ
- ◆ 毎月の法要・行事のお知らせ
- ◆ 宗派からの募集
- ◆ 真宗本廟や渉成園などの旬な情報を写真つきでお知らせ
- ◆ 寺院の方への便利な情報を集約

真宗大谷派ホームページ  
<https://www.higashihonganji.or.jp/>



東本願寺

検索



### 真宗大谷派公式 X・Facebook

法要・行事のご案内など、さまざまな情報を発信しています。ぜひフォローください。



X



Facebook

### ご懇志のお願い

私どもの宗門は、全国のご寺院とそこに集うご門徒のお運びいただいたご懇念により、宗祖親鸞聖人が頭かにされた本願念仏の教えに生きる「人の誕生」とその教えを相続していく「場の創造」を期し、報恩講や春の法要をはじめとするさまざまな法要や行事を執り行っております。

今後の宗門のさらなる興隆を念じ、お一人でも多くの方にご懇念をご進納いただきたく、ご協力くださいますようお願い申し上げます。



春の法要期間中、御影堂前受付テントにてご懇志をお受付しております

## 真宗本廟奉仕

真宗本廟には、全国から集う皆さんが寝食を共にし、親鸞聖人の教えを聞き、真宗門徒の生活を習う聞法奉仕の施設があります。

「同朋会館」に宿泊し、聞法をととして、かけがえない「私」をたずねてみませんか。どなたでも参加できます。

### お申し込み

- 【団体】1団体5名以上で受付します。
- 【個人】4名以下は個人枠で受付します  
(最少実施人数5名)。

40日前までに同朋会館研修部へお電話でお申し込みの上、1ヵ月前までに申込書を提出ください。

### 冥加金

| 期間   | 大人<br>(15歳以上)<br>※学生以外 | 学生・高校生  | 小中学生   | 団体園児   |
|------|------------------------|---------|--------|--------|
| 2泊3日 | 18,000円                | 13,500円 | 9,000円 | 5,000円 |
| 1泊2日 | 13,000円                | 9,500円  | 6,500円 | 3,500円 |

※未就学児は無料です。上記の他に、2泊3日の場合は米2kg(又は米代金1,300円)、1泊2日の場合は、米1.2kg(又は米代金800円)が必要です。

※人数に応じて「団体補助」、距離に応じて「旅費補助」があります。

※「障害者手帳」及び「生活保護受給者証」をお持ちの方に対する冥加金の減額や身体的介助が必要な方の介助者冥加金免除がありますので、お問い合わせください。

※能登教区から真宗本廟奉仕で上山される際の同朋会館冥加金については、各種別の半額に減額し、あわせて米(または米代)を免除させていただきます。



### 納骨・帰敬式受式でのご参拝の際同朋会館に宿泊できます(要事前申込)

納骨・帰敬式でのご参拝を縁に、  
同朋会館での生活を体験してみませんか?



縁  
特設サイト



縁  
えん



### 宿泊可能日

縁ホームページもしくは  
お電話にてご確認ください。

### 冥加金

1人: 10,000円  
小学生以下: 5,000円(1泊朝食付)

### 申込方法

宿泊日の30日前までに、縁ホームページ  
もしくはお電話にてご予約ください。

お問い合わせ・お申し込み

真宗本廟奉仕に関する情報を発信しています!

研修部 TEL:075-371-9185  
E-mail: [dobokaikan@higashihonganji.or.jp](mailto:dobokaikan@higashihonganji.or.jp)

同朋会館  
ホームページ



同朋会館  
Facebook





## 〈令和6年能登半島地震 宗派の取り組み〉

「令和6年能登半島地震」により、11教区969カ寺の寺院から被害が報告されており、特に能登教区においては、353カ寺中331カ寺から被害報告がありました。宗派では、発災後、能登教務所に「現地災害救援本部」及び「ボランティア支援センター」を設置して支援活動を継続しております。

また、現地への宗務所及び教務所職員の派遣も継続しており、これまでに救援物資搬入・配給、本堂・庫裡清掃、墓石養生、炊き出しの手伝い、避難所で茶話会、仏具の搬出、門徒宅のお内仏の移動、泥出しなどの支援を行っております。



能登教務所(現地災害救援本部)内に  
「ボランティア支援センター」を開設しています。



被災地におけるボランティア活動に関する情報の収集と提供、  
ボランティア活動参加者への支援活動を行います。

「ボランティア支援センター」  
ホームページ

〒926-0816 石川県七尾市藤橋町テ9-1 [能登教務所内]

TEL:070-1860-6010(専用電話) FAX:0767-53-0057[能登教務所]

E-mail:nvsc@higashihonganji.or.jp

◇宗派の支援活動や現地の被災状況等の最新情報はこちらから

真宗大谷派ホームページ  
「令和6年能登半島  
地震について」



「真宗大谷派 災害情報」公式X



「令和6年能登半島地震」において  
被災されました方々に対し、  
衷心よりお見舞い申し上げます。

## 「令和6年能登半島地震」災害救援本部の動き

期 間 4月1日(火)～5日(土)

開催時間 9時～16時 ※5日は正午まで

会 場 境内白洲テント

被災地の現状と宗派支援活動を伝える、写真パネルの展示を行います。



宗派では、このたびの「令和6年能登半島地震」の救援金口座を設置しています。  
皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

【救援金口座】

郵便振替口座番号 00920-3-203053

【加入者名】真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。

◇境内各所にも救援金箱を設置しています。ご協力をよろしくお願いいたします。

伝道ボックス91

## 立ち上がる念仏

—被災地 能登からのメッセージ—

竹原了珠 著

新書判 80頁 定価:330円(税込)



令和六年能登半島地震の被災者であり、復興支援の現場に立ち続けている著者が、その体験を経てあらためて受けとめられてきた念仏の教え、そして発災当初の動きについて語る。